

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2022年度	開講キャンパス		都城キャンパス	開設学科		子ども教育学科		
科目名称	社会福祉					授業形態	講義		
科目コード	750126	単位数	2単位	配当学年	1年	実務経験教員	○	アクティブラーニング	○
担当教員名	若宮 邦彦								
授業概要	<p>児童福祉の専門職である保育士として重要な事は社会福祉の理念・概念、歴史的変遷等を学び、基礎理論を理解することです。本授業では多岐に渡る社会福祉制度について社会保障制度との関連、社会保険等、身近な生活に引き寄せながら、その仕組みを学びます。そして乳幼児から高齢者まで、その生活課題や支援体制(制度・理論)の展開について基礎的知識を習得する事を目的とします。2年次以降の関連する授業科目や諸活動を提示する。加えて、対人援助実践として対象となる人(クライアント)との関係の在り方や支援の技術についてワーク・ショップやロールプレイ等を活用しながら学びを深めます。</p>								
関連する科目	履修後は社会的養護Ⅰ・Ⅱ、子ども家庭福祉、を履修することが望ましい。								
授業の進め方 と方法	テキストのみではなく、適宜レジュメを配布。パワーポイントを使い社会福祉の理念と各制度や専門職の役割、支援内容について講義をする。また、ソーシャルワークに関わる実践家をゲスト講師として招き、現場における支援の概要や専門性について学ぶ。さらに、事例検討のワークショップにて、学びを深め専門性の理解へとつなげていく。								
授業計画 【第1回】	1. オリエンテーション・社会福祉とは。その理念と定義・概要について学ぶ。								
授業計画 【第2回】	2. 社会福祉の発展過程と動向について学ぶ。 社会福祉専門職に共通する社会正義と権利擁護の理念とその萌芽、発展過程を俯瞰する。								
授業計画 【第3回】	3. 日本における社会福祉の歴史について学ぶ。 事前救済事業期から近代社会福祉の実践の歴史、児童福祉法成立から今日にいたる政策の変遷を理解する。								
授業計画 【第4回】	4. 日本における社会福祉の法制度(マクロ・レベル)からみた社会福祉を学ぶ。								
授業計画 【第5回】	5. 諸外国における社会福祉の歴史や概要について学ぶ。 諸外国の社会福祉の発展過程や諸相を概観する。								
授業計画 【第6回】	6. 社会保障制度と社会福祉の関連について学ぶ。 マクロ・レベルに着目しサービス利用の仕組みの措置制度から社会保険制度・利用契約制度への変遷の過程を理解する。								
授業計画 【第7回】	7. 児童福祉の概要と専門職。関連機関及び施設の機能について学ぶ。 児童養護施設のソーシャルワーカーをゲスト講師として招き、具体的な実践内容を理解する。								
授業計画 【第8回】	8. 障がい者福祉の概要と専門職。関連機関及び施設について学ぶ。 障がい者支援施設(就労支援・グループホーム等)のソーシャルワーカーをゲスト講師として招き、具体的な実践内容を理解する。 さらに、ソーシャルインクルージョンの理念についての学びを深める。								
授業計画 【第9回】	9. 高齢者福祉の概要と専門職。関連機関及び施設について学ぶ。 認知症サポーター養成講座講師をゲストに招き、具体的な支援内容や関係機関の機能を理解する。								
授業計画 【第10回】	10. 地域福祉の理論と実践。専門職と関連機関の概要を学ぶ。 コミュニティソーシャルワーク実践に携わる専門職を講師として招聘し現場実践の概要や職業としての社会福祉について学ぶ。								
授業計画 【第11回】	11. 貧困対策と子どもの貧困。地域福祉の理論と実践について学ぶ。 子どもの貧困の実態についてデータをふまえた変遷や制度の概要を理解する。 ドキュメントDVD視聴により地域で子どもの貧困対策に尽力する実践家の活動を理解する。								

授業計画 【第12回】	12. 個別援助技術(ケースワーク理論)の基本について学ぶ。 社会福祉援助技術の理論と展開Ⅰ(ワーク・ショップ)により理論と実践を理解する。
授業計画 【第13回】	13. 事例検討を通じたグループスーパービジョンについて学ぶ。 社会福祉援助技術の理論と展開Ⅱ。(ワーク・ショップ)を展開し、対人援助専門職を目指す自己覚知について学ぶ。
授業計画 【第14回】	14. 多職種連携とネットワークの意義と課題について学ぶ。 複合する生活ニーズに対して保健医療福祉専門職やインフォーマルな支援者の連携のあり方やネットワークの意義について理解する。
授業計画 【第15回】	15. 全世代・全対象対応型地域包括ケアシステムの意義と課題について学ぶ。 一般住民、乳幼児や障害者、高齢者にいたるまで地域福祉の観点制度や垣根を越えたソーシャルワークの理念と共生社会の意義を理解する。
授業の到達目標	1. 教育者・保育者として社会福祉の概念、理論を正しく理解する。【知識・理解の獲得】【コミュニケーションスキルの育成】 2. イメージやバイアスにとらわれることなく法制度や対象となる人や特別な配慮を要する子ども、保護者、社会的弱者への援助のあり方について理解する。【生涯学習力の育成】
学位授与の方針 (DP)との関連	1.知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1.知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2.汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2.汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3.人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3.人間力、社会性、国際性の涵養-(4)
授業時間外の学修 【予習】	授業中に配布する資料、提示するテキストで予習の箇所を提示します。 授業毎に基本テキスト配布資料を参考に20分程度の予習をすること。
授業時間外の学修 【復習】	リアクションペーパーに記載した内容を再考する。このために、毎回の講義前後に指定テキスト、配布資料により20分程度の復習をすること。
課題に対する フィードバック	レポート、最終試験は評価後、返却及び解説をする。
評価方法・基準	以下の項目に基づいて評価する。 1) 最終試験-50点 2) 小テスト及びレポート-20点 3) ワークショップへの参加意欲-30点
テキスト	「社会福祉の形成と拡大」井村圭壯・今井慶宗編著 勁草書房。
参考書	『よくわかる社会福祉』山縣 文治、林 浩康 編 出版社 ミネルヴァ書房。
備考	医療ソーシャルワーカーとして患者さんの支援、社会福祉協議会コミュニティソーシャルワーカーにおいて地域福祉実践、熊本市要保護児童対策地域連絡協議会委員や多問題家族に対するファミリーソーシャルワーク、多機関との連携によるケアマネジメント実践に携わっていた際の内容も授業に取り入れる。また、地域包括支援センター管理者として地域包括ケアシステム構築に向けた諸活動の実践事例も紹介する。